



魂のパワー全開

永田円了

Beyond YOUR MIND

魂のパワー全開事例その、第44代アメリカ大統領オバマ氏(47歳)、この人のパワーは一体何なんだろう、ケニア出身の父、カンザス州出身の母の間に生まれ、両親はオバマ氏3歳で離婚、その後母親はインドネシア人と再婚し共に海を渡る。その4年後単身再びハワイに戻ったのは、オバマ氏10歳の時だった。10代の多感な時期を、彼は白人の祖父母とハワイの窮屈なアパートで暮らした。

「俺は親に見捨てられたんだ症候群」に陥っても何の不思議はない。親に対する不信任感、人種偏見など、世間を敵にした「ひねくれ者」になってもおかしくなかった。その彼がアメリカ大統領になった。

先日の大統領就任式の感動は言葉に尽くせない。会場のワシントンDCには、200万人の市民がアメリカ全土から集まった。吐く息が白く、凍り付きそうな厳寒のなか、彼らは7時間も立ち尽くす。しかし彼らには暖房はいらない、テレビに映し出される市民の顔は輝いている。身体の中の魂が燃えているのである。

これまでにして、人を引きつけるオバマ氏の魅力とは一体何なんだろう。スピーチ力だ、とマスコミは言う。日本でも『オバマ演説集』CD付(朝日出版社)がベストセラーになっている。確かに彼の演説は瞬時にして人の心を虜にする、そういう力は持っている。でもただ演説のテクニック、それだけで、これだけの人々、世界中の人々を引きつけることができるのだろうか。私はそうは思わない。



人の上に立とうとする者、スピーチがうまくてあたりまえのこと。でも、オバマ氏のスピーチは何かが違う。何だろう。それは、私は、オバマ氏のもつ魂のパワーだと思う。絶妙なスピーチテクニックをもつヒラリー・クリントン女史、しかし彼女の言葉は何か、ウラで票取りを願う策略の臭いがした。オバマ氏にはそれが無い。何故なら、彼のスピーチには聴く人を元気にしてくれる何かがあるからである。聞く人々を魂レベルで共鳴を促す何かがある。



魂のパワー全開事例その、NHK『秋つながる心～見えないことは、不幸じゃない～』(2008年11月6日放映)で紹介された、福原理絵さん家族の事例です。

理絵さんも夫の良英さんも全盲です。お子さんは二人、長女の立春香(はるか)ちゃん(6歳)も全盲、家族で次女の明葉(あきは)ちゃん(4歳)だけが目が見える。この家族の子育てが私の魂を共鳴させた。

その日はパパの誕生日、楽しいはずの食卓での出来事だった。長女の立春香ちゃんが、お皿を落としてしまう。割れた皿の破片に怖がる立春香ちゃんに、お父さんは、「自分で拾いなさい」と命令する。手を切るから怖いと、泣き叫ぶ立春香ちゃんに、良英さんは容赦はしない。「拾え、拾え！」とナイロン袋を渡し、テーブルの下で割れた皿の破片を全て素手で回収させるのである。

家族の子育てルール: 目が見えないことを、言い訳にしない

見えないのだから、できない、分からない、しょうがない、諦める、という考えでは、前に進めないからである。決して、目が見えない特殊性を売り物にしないのです。オバマ氏が、黒人であるということ売り物にしなかったと同様に、

“お世話してね”は、間違った認識

家族で唯一目の見える次女の明葉ちゃんが、お母さんの手を引いている姿に近所の人が同情を示した。それに対して理絵さんは答える: 「目の見えるあなたに、お世話してもらおう気持ちはありません。何よりも、あなたがそのような重荷をしゃわないようにしてほしい。」「あなたは、視覚から得られるたくさんのことを、私たちに教えてください。これは、お世話ではなく、人間として当たり前のことです」「一人ひとりが、できることを誰かに提供する、これが本来あるべき姿だと思いませんか」と。

理絵さんは、次女明葉ちゃんに手紙を書く。このように、「私は残念ながら、あなたの表情を目で見ることはできません。でも、いつもあなたの心の声が聞こえるように、耳を澄ませています、



魂のパワーを全開にして、